

るくおん通僮

発行日： 1993年 7月15日

No. 55号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作係

## 「音声訳」を考える（第6回）

## 漢字の補足

日本語の文章は、漢字があるからおもしろく読めますが、これがカタカナだけの文章で改行もカギ括弧なども無く、ずらずらと続いた文章だったら、非常に分かりにくいものです。

音声訳の作業はこのカタカナだけの文章を、できるだけわかりやすく補足などをしながら読んでいく作業に近いものだとも言えます。

最初からカタカタだけの文章であれば、どっちの言葉に当たるのかわからないところや、意味が通じにくいところなどがよくわかるのに対して、墨字の文章を見ているものには、なかなかそれがわかりにくいのです。私達が錯覚を起こし易いのは、文章を見てしまっていることから、音声だけで聞いている人も分かるように思ってしまうことです。ですから、まず①どんな時に入れるかの基準を持たなくてはなりませんし、また②どんなところで入れるか、つまり文章のどの場所で補足するかも重要です。そして③どんな言葉を使って説明するかは慎重に考えなくてはなりません。場合によってはかえってわかりにくくなることさえあります。最後に④音訳者が補足をしていることが分かるように入れるテクニックも大切です。以上の4点を踏まえて、今回から、具体的に「漢字」についてその処理を考えていきます。

『レコーディングマニュアル』では、「漢字」の補足が必要な時とは、「同音異義語の場合で、アクセントも同一で、なおかつ文章の前後からしても判断できない場合、その語句を説明する。」とあり、また説明の方法は、「意味を説明する場合と、漢字の説明をする場合がある。」となっています。また、最近だされた『レコーディングマニュアル』の改訂版『活動するあなたに』では、「同音異義語の時に、①漢字の訓や読みで説明する。②その漢字を含む熟語で説明する。③漢字のへんやつくりで説明する。④言葉の意味を中心に説明する。」とあります。

しかし、これだけでは、「漢字」の説明が必要な時どれにあてはめて処理すればよいのか迷います。漢字が問題になっている時とは、単に同音異義語だけではありませんし、ケースによって音声訳者の補足の方法（ポイント）も変わってきます。今回はそれを整理してみます。

まず、漢字の説明をする場合、以下の4つのポイントがあげられます。

1. どんな時に、

2. どこで、

3. どのような説明を、

4. どのように (テクニック) 補足をするか

です。さらにそれぞれのポイントは以下のように整理できるでしょう。

1. どんな時に

- ①他に同音異義語があって判定がつかない時。
- ②著者の造語で使われている意味が分からない時。
- ③漢字自体が問題になっている時。
- ④音と訓の関係が分からない時。
- ⑤イメージを深める時。

2. どこで

- ①その語句が出てきた時。
- ②文章の区切りで、
- ③その言葉の前で、

3. どんな説明

- ①同音異義語では、どちらの言葉かがわかるように補足。漢字を説明することが目的ではなく、どの言葉かを分らせることがポイント。
- ②造語の時には、使われている漢字を説明することで造語の意味がわかるように。造語の意味からはずれるような熟語や違うイメージをもつ説明はさける。
- ③漢字自体を問題にしている時には、必要な補足をする。漢字を問題にするケースは、漢字の何を問題にしているかで補足の内容がかわりません。
- ④音と訓の関係が分からない時には、同一漢字であることを補足する。
- ⑤イメージを深める時には、漢字の補足をすることで、イメージが深まるような字の説明をする。

4. どう入れるか (テクニック)

- ①本文と区別できる様に、声の調子を変える。
- ②「音声訳者注」「注おわり」と断わる。
- ③本文との間に間をとる。

以上のようなことを配慮しながら音声訳者が適宜補足をしていくことになります。

次回から具体的な例文などで考えていくことにします。

## 正誤表から・・・その30

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
富人	フジン	トミヒト	良吏	リョウシ	リョウリ
空室	アキシツ	クウシツ	満点星	マンテンセイ	ドウダン
勤行	キンギョウ	ゴンギョウ	奇しくも	キしくも	クしくも
仏証	ブッセイ	ブッショウ	尾羽	オバ	オハ

## 二通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その17

心中	シチュウ	むねのうち、心のうち	性根	ショウネ	心のもち方、心づかい
	シジュウ	人に対する義理ヲ礼ト、情死		ショウコン	一つの事を長く続ける元気
素子	ソシ	ELEMENT	上田	ウエダ	高い所にある田
	ソゴ	卑賤なもの		ジョウデン	地味の肥えた田地
生者	ショウジャ	セイシャ 生きている者	正中	セイチユ	物の中心、的中
	ナマモノ	未熟な者、はした者		ショウカ	能舞台で中央の位置

※前号で立礼の読みが間違っておりました。正しくはリツレイ、リュレイで、リョレイは間違い。  
お詫びと共に訂正をお願いします。

**Q:** ルビの間違いは音声訳者がかってに訂正して読んでもいいのでしょうか？

**A:**

最近、ルビが間違っていると良く指摘されます。ルビを著者が付けるのではなく、出版社のアルバイトが付けるケースもあるとかで、専門書でもよくルビのミスが目立つ本もあるようです。しかし、ルビを簡単に間違いとして訂正して読むのは慎重にすべきでしょう。広辞苑に違う読みが載っていて、他の辞書にもルビの読みがないからと簡単に訂正すると、実はその分野の辞典には読み方としてある場合があります。

最近の例で、中国医学の関係の本で、「相生」に「ソウセイ」とルビがあり、広辞苑などには「ソウショウ」しかないので、間違いとして訂正したところ、後に三療関係の辞書に「ソウセイ」の読みも載っていたケースもあります。

ルビを間違いとして訂正する時には、より慎重にする必要があるでしょう。

## 音訳グループリーダー連絡会

場所： 盲人情報文化センター6階

日時： 1993年7月23日(金)

13:30~15:30

内容： 1. グループリーダー中心に処理の研修。

( )の処理の研究(第3回)

2. グループ交流・意見交換

\*グループリーダーを中心にした勉強会です。お気軽にご参加ください。

\*参加グループは、現在12グループ15、6人です。次回は( )の例文の研究

## リクエスト図書一覧

以下の図書は利用者から製作依頼を受けている図書です。

グループの方で、音声訳が可能な方がありましたら清水までご連絡ください。

『無句徳第56.57号』/承福寺著 <仏教>

『証言「朝鮮人従軍慰安婦」』第1集/日朝協会埼玉県連合会編 <歴史>

『証言「朝鮮人従軍慰安婦」』第2集/日朝協会埼玉県連合会編 <歴史>

『屍蘭 新宿鮫』/大沢在昌著 <推理小説>

『道化師は笑わない』/山口正介著 <小説>

『ダイナマイト思考ミラクル宣言』/大川隆法著 <宗教>

『天照大神の霊言 よみがえる日本の神々』/善川三朗編著<宗教>

## リクエストグループへのお知らせ

リクエスト図書の製作にご協力頂いている方に、ソニーのカセットデッキ (SONY-RX70 1台 SONY-RX77 1台 SONY-RX79 2台の計4台。但し、デッキのみ) の貸し出しをします。

希望者される方は、グループリーダーを通して係りまでお申し込み下さい。

申し込み締切は8月末